

## 創世記49 創世記36章1節～37章1節

### 「エサウのトルドット」

#### イントロ：

1. 創世記は11のトルドット（歴史、経緯）に分かれる。

(1) きょうは、第9番目と第10番目のトルドットを扱う。

(2) 36：1 「これはエサウ、すなわちエドムの歴史である」

(3) 36：9 「これがセイルの山地にいたエドム人の先祖エサウの系図である」

(4) 37：2 第11番目のトルドットが始まる。「これはヤコブの歴史である」

2. 文脈を確認する。

(1) ヤコブの物語からヨセフの物語に移行する際の、挿入句のような箇所。

(2) 私たちには無味乾燥な箇所。

3. きょうの箇所

(1) エサウのトルドットが記録されている理由

(2) 第9番目のトルドットの内容

(3) 第10番目のトルドットの内容

(4) エサウのトルドットが短い理由

4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

(1) 聖書のどの箇所にも、霊的適用や教訓が含まれている。

(2) 骨太の信仰とはなんであるかを学ぶ。

このメッセージは、エサウのトルドットから霊的教訓を学ぼうとするものである。

#### I. エサウのトルドットが記録されている理由

1. アブラハムへの約束の成就を示すため

(1) 創17：1～6（特に4節）

「わたしは、この、わたしの契約をあなたと結ぶ。あなたは多くの国民の父となる」

(2) アブラハムからイシュマエルが誕生し、その子孫がアラブ人となった。

(3) ここでは、エサウの子孫がエドム人となる。

2. リベカへの約束の成就を示すため

(1) 創 25 : 21~23 (特に 23 節)

「すると【主】は彼女に仰せられた。『二つの国があなたの胎内にあり、二つの国民があなたから分かれ出る。一つの国民は他の国民より強く、兄が弟に仕える』」

(2) リベカから、エサウとヤコブが誕生した。

(3) エサウはエドム人の先祖となる。

(4) ヤコブはイスラエル人の先祖となる。

①アブラハムの子孫だと言うだけでは、ユダヤ人とは言えない。

②ユダヤ性はアブラハムによってではなく、ヤコブによって規定される。

3. 神は約束を守るお方であることを示すため

(1) 聖書が書かれた目的は、「人類の救い」ではなく、「神の栄光」である。

(2) 神が約束されたことは、ことごとく成就する。

## II. 第9番目のトルドット (36 : 1~8)

「これはエサウ、すなわちエドムの歴史である」

1. 妻と息子を列挙している。

(1) 3人の妻と5人の息子

2. エソウの移住 (6節)

(1) アブラハムとロトの分離に似ている。

①都市国家の隙間にある土地は狭くて共存できない。

(2) エサウは、ヤコブが帰還する前からセイルの山地に住み着いた。

①かつて長子の権を求めて争ったが、自分の居場所を見つけた。

(3) エドムは地名である。

①申 2 : 5 「彼らに争いをしかけてはならない。わたしは彼らの地を、足の裏で踏むほども、あなたがたには与えない。わたしはエサウにセイル山を彼の所有地として与えたからである」

②ヨシ 24 : 4 「わたしは、イサクにヤコブとエサウを与え、エサウにはセイルの山地を与えて、それを所有させた。ヤコブと彼の子らはエジプトに下った」

## III. 第10番目のトルドット (36 : 9~37 : 1)

「これがセイルの山地にいたエドム人の先祖エサウの系図である」

1. 焦点は、セイルの山地 (エドム) に合わさる。

(1) 第9番目のトルドットは、カナンの地で誕生した息子たちに関するもの。

2. エサウの息子たちと孫たち（36：9～14）

- (1) 息子は5人、孫は10人
- (2) 合計15人

3. 首長たち（36：15～19）

- (1) 息子と孫を合わせて15人。
- (2) そこから13人の首長が起こされる。
- (3) つまり、エサウから13の氏族（部族）が出たということ。

4. この地の住民ホリ人セイルの子（36：20～30）

- (1) ホリ人は、セイルの山地の先住民である。
- (2) 一般的にはフリル人と言われる。
- (3) ホリ人はエドム人に征服される。
- (4) エドム人とホリ人の雑婚が起こる。

①文化的、宗教的には、ホリ人がエドム人を征服したと言える。

5. エドムの王たち（36：31～39）

- (1) 8人の王たちが列挙されている。

①世襲制ではなく、選挙で選ばれた。

- (2) ヤコブの子孫から王たちが出るという約束があったが、エサウの方が早い。

6. エサウから出た首長（族長）たち（36：40～43a）

- (1) 支配していた土地に強調点がある。
- (2) 同時代に生きていたと思われる。

7. エサウとヤコブの分離（36：43b～37：1）

- (1) これ以降、エサウは聖書の記録から消え去る。

#### IV. エサウのトルドットが短い理由

1. エサウは支流であるから。

- (1) 先に支流を扱い、その後で本流に戻る。

2. エドムという名前

(1) 土地の名前

(2) 「赤い」という意味でもある。創 25:30

「エサウはヤコブに言った。『どうか、その赤いのを、そこの赤い物を私に食べさせてくれ。私は飢え疲れているのだから』。それゆえ、彼の名はエドムと呼ばれた」(3) その名前は、長子の権利を軽んじたことをいつまでも記念するものとなった。

## 結論

1. 聖書のどの箇所にも、霊的適用や教訓が含まれている。

(1) 神の約束は、必ず成就する。

(2) エサウの名前は、反面教師である。

2. 骨太の信仰とはなんであるかを学ぶ。

(1) エサウへの約束は、早く成就している。

①彼は、自分が所有する土地を早々と得た。

②彼から王たちが出てきた。

(2) ヤコブへの約束は、なかなか成就しない。

①ヨセフ物語が続く。

②ヤコブとその息子たちは、エジプトに下る。

③そこで400年間苦しむ。

④出エジプトの体験をする。

⑤カナンの地に定住するが、約束の地をすべて所有することはなかった。

⑥王たちは、士師記の時代の後に出てくる。

⑦ヤコブ個人への土地の約束は、メシアの再臨を待たねばならない。

(3) クリスチャン生活の感謝

①日々の喜び

②日々のチャレンジ

③変わる事のない希望